

# 地域と共に歩む

# 君商

## 富津市との交流

君津商業高校は地元富津市と連携を深め色々な場で交流を行っています。

家庭科の授業で漁協組合の女性の方を招き、魚のさばき方を学習したり、富津市国際交流会の招きで日本に来たアメリカの高校生と交流を行っています。



魚のさばき方講座



浴衣を着たアメリカの高校生

## ～生徒の活躍～

### ★ 生徒商業研究で富津市をアピール

商業研究部では富津市の魅力を全国に発信しようと調査研究を行い富津市に数々の提案をしてきました。一昨年は富津市のと新たなふるさと納税の提案を、昨年は富津市のカフェをパンフレットにすることで多くの人に知ってもらう取り組みを、そして今年は富津市に廃校を利用した道の駅を作ることで富津市の魅力の発信を提案しました。



富津市長との意見交換会



富津市議会での発表会

## 地域連携活動

富津市の要請を受け、駅前で痴漢防止キャンペーンを行ったり、夏休み中に地域の方を対象にワープロ講座を開講し、本校生徒が指導のお手伝いをしました。



地域の方にパソコンを指導する生徒



大貫駅前でのパンフレットの配布

## 令和元年度魅力ある県立学校づくり大賞 応募概要(千葉県立君津商業高等学校)

- 1 目的 本校では学校のある富津市と様々な活動を通して交流を行っている。富津市から漁協組合の方々や市役所の職員を招いて「魚のさばき方講習会」をまた、富津市の国際交流協会が招いたアメリカの高校生と1日交流を行った。さらに、市からの要請を受け、痴漢防止マナーキャンペーンの広報活動を駅前で行ったり、夏休み中に地域の方を招いて「ワープロ講習会」を行った。

富津市との交流をさらに広げるため授業の生徒商業研究において「富津市の魅力をどうアピールしていくか」という研究テーマを設け、プレゼンにまとめ発表をしてきた。2年前はふるさと納税のレベルアップを提案し、去年は地元のカフェの魅力をパンフレットにして配付した。さらに今年度は富津市の廃校になった学校を利用して道の駅を作ることを富津市に提案した。
- 2 成果 生徒自身がそれぞれのアイデアをだしいろいろと議論をすることで地域のことを考えるきっかけとなった。生徒が直接、企業に電話したり、アンケートの文書を考えたりとより実践的な経験ができた。
- 3 準備段階の工夫 去年は1軒1軒カフェをまわったり、今年度は現在ある道の駅を調査した。資料等がなくすべて一から始めるため苦労が多かった。市の広報担当の人に話を聞いたりしてヒントを得たりした。
- 4 実施段階の工夫 市長からインタビューをして直接声を聞いたり、市民の方にアンケートをとることで生の声を聞き反映させた。
- 5 広報活動とその成果 富津市に出向いて市長はじめ、幹部職員に対してプレゼン発表を行った。さらにミニ集会においても発表し、好評であった。カフェの広報については、インスタグラムに載せることでフォロワーの数を増やした。
- 6 取り組みへの反響 市長からの要請を受け、富津市役所や富津市議会で発表した。ふるさと納税の提案は実際に市側が取り入れてくれ、ふるさと納税の品を改良した。カフェのパンフレットを作製、配布することでカフェに来る若い方が増えたとの報告を受けた。また、廃校を利用した道の駅の提案は、市長から前向きに検討したいとお言葉をいただいた。
- 7 今後の発展 今後も活動を続けて魅力ある富津市になるよう様々な提案をしていきたい。